

平成29年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる「プロジェクト型」の共同研究 研究報告書

平成 30年 3月 30日現在

研究課題名	社会主義の記憶とノスタルジア：旧ソ連・東欧・中国・ベトナムの比較から				
申請者 (代表者)	氏名		所属機関・職		
	高山 陽子		亜細亜大学国際関係学部・准教授		
研究構成員		氏名	所属機関・職	専門分野	役割分担
	1	越野 剛	北海道大学・スラブ・ユーラシア研究センター・准教授	ロシア文学	ロシアの戦争の記憶の研究
	2	今井 昭夫	東京外国語大学・総合国際学研究院・教授	ベトナム地域研究	ベトナム戦争の記憶の研究
	3	田村 容子	福井大学・国際地域学部・准教授	中国現代演劇	中国社会主義文化の研究
	4	向後恵理子	明星大学・人文学部・准教授	日本近代美術史	隣接地域から比較
	5	福田 宏	成城大学・法学部・准教授	中央ヨーロッパ近現代史	東欧における革命の記憶の研究
	6	平松 潤奈	金沢大学・外国語教育研究センター・准教授	ロシア文学	理論的枠組の提供
7	加藤 久子	國學院大学・客員研究員	ポーランド現代史	負の遺産の研究	
<p>研究成果の概要</p> <p>本研究の目的は、社会主義の記憶とノスタルジアについて、旧ソ連・東欧・中国・ベトナムの事例を通して比較・検討することである。社会主義の記憶とノスタルジアに関して以下の2回の研究会を開催した。</p> <p>2017年7月29日 於：北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター 社会主義の記憶：中国の革命記念碑の事例を中心に（高山） 記念碑の存在論：ポスト・ソヴィエト・メモリースケープを望んで（平松） 1965年5月9日の「黙祷」放送：ソ連における戦没者追悼行事の創造（半谷史郎・愛知県立大学） ポーランドのカトリック巡礼地が表象するdarkness：碑、蠟人形、地獄めぐり（加藤）</p> <p>2018年1月27日 於：亜細亜大学総合研究棟 南京大虐殺の慰霊碑と記念館の歩み（楊小平・東亜大学） ベトナム戦争における「正義」の展示（大塚直樹・亜細亜大学） ノヴァ・フータとティヒ：「社会主義都市」の過去・現在・未来（菅原祥・京都産業大学） 北朝鮮の映画における女性兵士（門間貴志・明治学院大学） コメント（永綱憲吾・亜細亜大学）</p>					

研究成果の概要（続き）

2回の研究会で議論したのは以下の4点である。

①現在の記念碑研究

社会主義国の記念碑の特徴は、体制転換に伴って記念碑が撤去・移築・新設される事例が多いことを議論した。体制転換後の社会主義記念碑の位置づけは、どのように社会主義を歴史として保存・記憶するかに依拠する。社会主義体制が比較的弱かったハンガリーではメントパークのように早期に社会主義記念碑を保存したが、社会主義体制が厳しかった東ドイツやチェコでは近年、記念碑を博物館などで展示するようになった。社会主義体制を維持する中国では愛国主義政策下で人民解放軍の記念碑が建立される。

②社会主義の記憶

社会主義の記憶には多様な側面があることを議論した。ベルリンのDDR博物館やプラハの共産主義博物館のように日常生活を展示するものと、ベルリンやライプツィヒにあるシュタージ資料館のように厳格な監視体制を展示するものがある。また、革命戦争が独立戦争と一致する中国やベトナム、北朝鮮では社会主義の記憶と戦争の記憶は大きく重なり、社会主義革命戦争／独立戦争／解放戦争を描く映画やドラマが今でも制作され続けている。

③社会主義から愛国主義へ

ロシアと中国では社会主義イデオロギーが愛国主義へ収斂されている。事例として独ソ戦の死者を追悼するロシアの「不死の連隊」、革命戦争の死者を烈士として追悼する烈士記念日の式典などが挙げられる。二つの大国がどのような背景をもって愛国主義を強めていくのかについて今後さらなる検討が必要であることを確認した。

④社会主義文化のキッシュ化

各国で社会主義リアリズムの作品をモチーフにしたキッシュな商品が増えている事例に関して、キッシュの意味について詳細に検討する必要があることを確認した。

主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書 等）※謝辞の有無について明記願います。

加藤久子「現代史における宗教研究の可能性と課題：ポーランド史の視点から」東欧史研究会『東欧史研究』第40号、165-170頁、謝辞なし。

向後恵里子「日露戦争の美術—戦争画・従軍画家・美術国」『近代画説』第26号（明治美術学会）、2017年12月、94-111頁、謝辞なし。

高山陽子「烈士陵园の景観：南部と北部の記念碑の比較から」『国立民族学博物館調査報告』142号、2017年、85～102頁、謝辞なし。

越野剛・田村容子「連環画の中のソ連幻想—女性兵士の物語『朝焼けは静かなれど』」『連環画研究』第7号、2018年3月、48頁～66頁、謝辞なし

福田宏「スロヴァキア：国民記憶院」『現代スロヴァキアにおける歴史論争：第二次世界大戦期の位置づけをめぐる』橋本伸也（編著）『せめぎあう中東欧・ロシアの歴史認識問題：ナチズムと社会主義の過去をめぐる葛藤』ミネルヴァ書房、2017年、謝辞なし。

当該研究活動を基に応募中の研究プロジェクト（科研費等）

特になし

※枠を調整することは構いませんが、ページは追加しないでください。